

なかしべつ 観光情報

見る・遊ぶ



スノーシューハイキング、フォトツアー、星空ウォッチング、乗馬、アドベンチャーカウベルツアー、レンタサイクルなどの情報



泊まる



湯宿、ホテル、ビジネスホテル、旅館、温泉付き宿泊施設などの情報



食べる



そば、イタリアン、中華、食堂、寿司、お好み焼き、うどん、パン、カレー、カフェ、ジンギスカン、焼肉、居酒屋、アイス、お土産などの情報



温泉



温泉の素・中標津6つの旅湯、日帰り温泉マップ、養老牛温泉、温泉+αで楽しむ、などの情報



知①つとく・しるべ

東経145度の標

大地が丸く見えることで知られる中標津。
この地はまた、子午線(145度)が縦断し、時の刻みの「標」ともなっています。日本の標準時の基点となる兵庫県明石市は東経135度に位置し、中標津はちょうど10度の違いで、時間にして40分の差、距離にすると1,310kmになります。中標津と同一経度上には、南半球オーストラリアのメルボルン市(約9,020km)とタスマニア島(約9,570km)があります。



中標津 しるべめぐり

N43°
E144°

中標津の歴史と文化をさまざまな視点から探る

概要編

中標津しるべめぐりとは

中標津町には縄文時代から現代へと続く文化財が各所に点在しています。

広大な大地に広がる自然環境に育まれてきた歴史と暮らしを多くの人に体験していただきたいと思い、「中標津しるべめぐり」を発刊します。一人でも多くの方がこの冊子を手にとって、中標津町の歴史文化をめぐり、触れていただけたら幸いです。

中標津しるべつなぎ構想

中標津しるべつなぎ構想は、旧農試庁舎(旧北海道農事試験場根室支場)に新設する博物館機能をコア博物館とし、町の歴史文化をテーマに複数の先人たちの物語で紹介する『なかしるべつなぎ遺産』と、それらを構成する文化財をめぐること、歴史文化を感じて学ぶことのできる仕組みです。本構想は、「コア博物館」「サテライト博物館」「サテライト」「トレイル」で構成し、暮らしの中で継承されてきた町内に点在する文化財をめぐり、町全域をひとつの「博物館」としています。徒歩や自転車、車などを使い、まち中をめぐること、地域の歴史文化の魅力を感じてみませんか。

構想イメージ図



歴史文化から読みとく町の特徴

中標津町は古代より、標津川とその支流の自然の恵みを楽しみながら、人々の暮らしが支えられてきました。また、町の地理的特徴として根室内の中心に位置することから、古くより人々が行き交い、近代以降には交通網の整備が進み、商工業の形成、根室内陸の交流都市へと発展を遂げてきました。一方で、開拓期には厳しい自然環境と対峙する中で、産業や暮らしが営まれ、地域に受け継がれる風習や食文化といった生活文化が育まれ、広域に展開する格子状防風林と農地が織りなす文化的な景観が紡ぎ出されました。このように、町の自然環境、地理的環境と人々の暮らしや産業が密接に関わり合うことによって、有形無形の文化財が生み出されており、そこに町の歴史文化の特性を3つ見ることができます。

歴史文化の特性1

標津川とその支流が支えてきた奥根室の人々の暮らしと産業

町名の由来である標津川をはじめ、各河川には古代から自然の恵みを受け、人々の暮らしが営まれてきました。江戸時代には、標津地方の鮭が主産物の一つに挙げられており、幕末に描かれた『標津番屋屏風』には、標津川でとれた鮭の塩引き作りの様子が描かれています。



『標津番屋屏風』
※一部拡大(新潟県西蔵寺所蔵)



『東西蝦夷山川地理取調図 十四』
(加賀家文書館所蔵)



標津川

人とモノが集まる「交通」を通じて育まれた、 時代を象徴する歴史文化

標津川とその支流には竪穴住居跡などの遺跡が点在しています。周辺にはアイヌの人々が使用していた踏み分け道(後の旧斜里山道)が通っていました。近代には入殖者の通行路としても利用され、やがて駅通所が設置され、市街地が形成されました。古代からの踏み分け道にはじまり、人とモノが集まる根室地方の交通の要衝として、時代時代を象徴する文化財が生まれてきました。中標津町は近隣市町村から1時間圏内で往来できる利便性、地の利を活かして市街地が急速に形成されました。



1927(昭和2)年撮影 中標津、殖民軌道の停留場



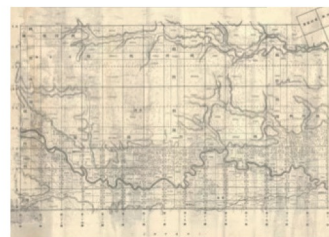
現在の中標津。殖民軌道の停留場跡付近



旧斜里山道跡

先人の幾多の苦勞と成功を礎に形成された 一大酪農地帯が生み出す根釧台地の風景と歴史文化

明治の終わりに始まった原野開拓は稲作から畑中心へと変化しましたが、度重なる冷害凶作により、1933(昭和8)年には北海道庁の指導で畑作から酪農経営への転換が推奨されました。その後、酪農が基幹産業になるまでには長い時間を要しますが、この地域が手つかずの森であった時代に北海道庁によって作成された「殖民地区画図」に基づき、防風林や農地をはじめ、道路や市街地の町割りなどが進められ、先人の多大な苦勞と成功を礎として一大酪農地帯が形成されるとともに、この地方独特の景観が生み出されてきました。



標津郡中標津原野殖民区画



日本最大規模の防風林
根釧台地の格子状防風林

提供:アジア航測株式会社

6つのしるべめぐり

後世に受け継ぐ6つの“標”の物語で、町内のしるべを知っていただき、巡っていただけるよう、冊子づくりを進めています。この標は今後も行政、町民、専門家との調査などを継続していく予定です。

標 1

標津川とその支流に残る
古代から近世の暮らしを伝える遺跡群

標 2

標津川とその支流に発展した産業遺産

標 3

400年以上も前から続く人々の憩いと
集いの場・養老牛温泉

標 4

道東における古代から近現代に続く
交通の要衝中標津の道と駅

標 5

旧北海道農事試験場根室支場を拠点として
発展した中標津の酪農と宇宙からも見える
格子状防風林がつくる酪農景観

標 6

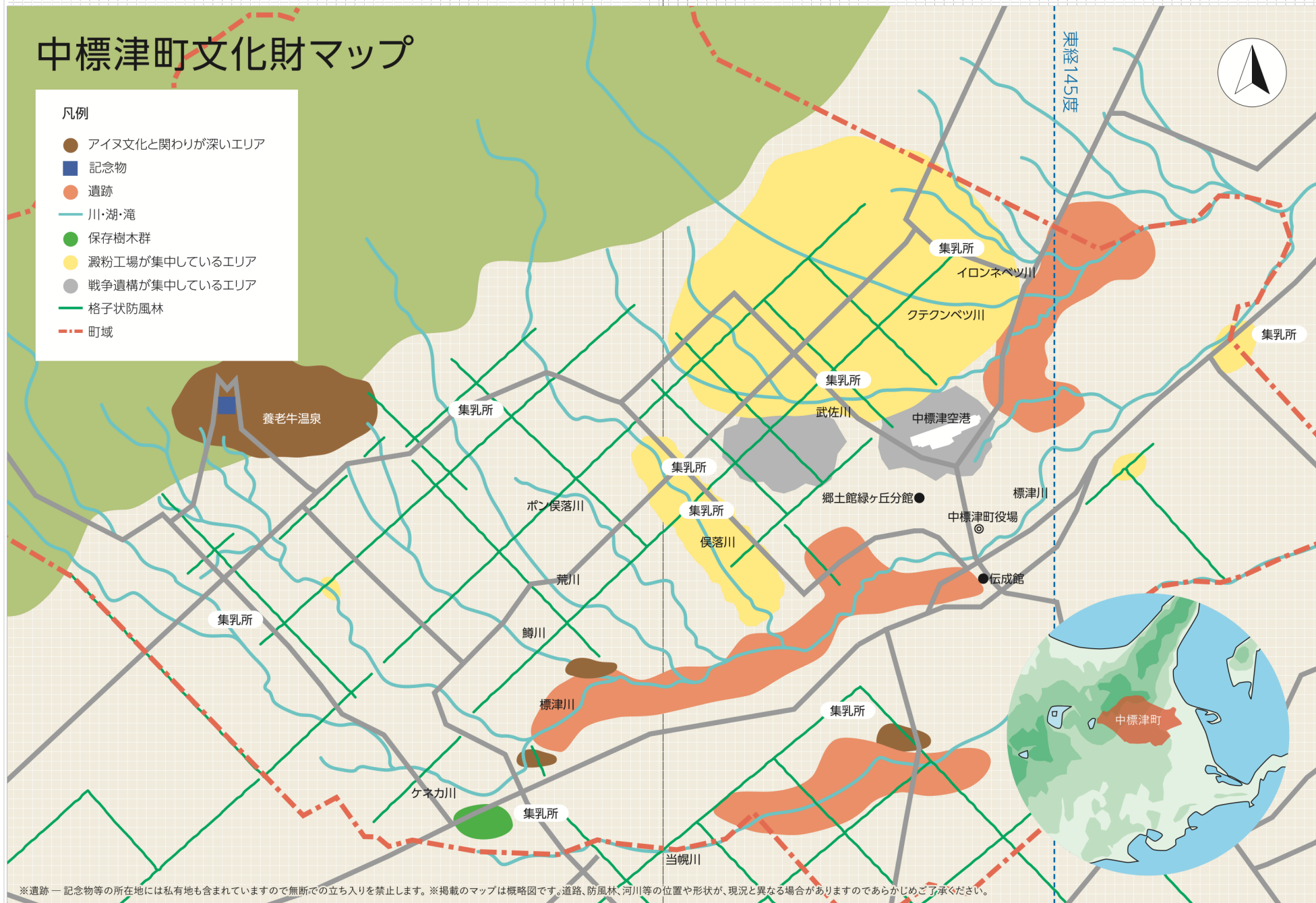
酪農の発展とともに培われた
生き生きとした生活文化

※標とは、なかしべつ遺産「標」の略語。文化財の背景にある共通する先人たちの物語。
その物語は、次世代へ語り継ぐ「標」となることから、町の地理的・歴史的な関わり合いの深い字を用いて名付けた。

中標津町文化財マップ

凡例

- アイヌ文化と関わりが深いエリア
- 記念物
- 遺跡
- 川・湖・滝
- 保存樹木群
- 澱粉工場が集中しているエリア
- 戦争遺構が集中しているエリア
- 格子状防風林
- - - 町域



※遺跡 — 記念物等の所在地には私有地も含まれていますので無断での立ち入りを禁止します。※掲載のマップは概略図です。道路、防風林、河川等の位置や形状が、現況と異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。